



THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO
CHARTERED ON NOVEMBER 21, 1955

2018年10月

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(YMCA561)5217

札幌クラブ

The Service Club of YMCA
The International Association of Y's Men's Clubs

キックオフ・YMCAサービス・ASF

— 主 題 —

国際会長 「Yes, We can change」
アジア会長 「Action」「アクション」
東日本区理事 「為せば 成る」
北海道部部长 「その先のワイズへ」
札幌クラブ会長 「楽しいワイズ」

Moon Sang Bong (韓国)
田中 博之 (東日本)
宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)
二本松能敬 (北見)
柴田 伸俊 (札幌)

札幌クラブ役員

会長 柴田 伸俊
副会長 伏木 康
書記 小野 健
会計 秋葉 聡志
直前会長 柴田 伸俊

今月の聖句

いつも喜んでいなさい。 絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。
テサロニケの信徒への手紙 I 第5章第16節 中田 靖泰会員選

歌は世につれ 世は歌につれ

中田 靖泰

ブリテンの8月号をお送りする際に8月なのにあの『長崎の鐘』を歌える会員がいない」と嘆き節を書いたところ、方々から励ましのメールを頂きました。

埼玉クラブの衣笠さんからは「我がクラブでは8月にはいつも『長崎の鐘』と『アンジェラスの鐘』を歌っているぞ」と頼もしいメール。甲府クラブの大沢さんからは『8月や6日9日15日』の句の意味が分からない会員も多くなりましたが、まだ中学校、小学校で甲府大空襲の惨禍を語り伝えています」という頭の下がるメールを頂きました。

実は数か月前にも「今月の歌」で「里の秋」を歌ったのですが、その時の20代の卓話者はこの歌を知りませんでした。他の参加者はこの歌を歌えるけれどこれは戦前から伝えられている「うさぎ追いしかの山」的なふるさと民謡だと思っていました。そこで私はこの曲の3番の

「♪さよなら さよなら 椰子の島 お船に揺られ手帰られる ああとうさんよ ご無事でと 今夜も かあさんと 祈ります♪」

を紹介して、これが第2次大戦が終わって南方戦線から引き揚げてくる父の無事を故郷で母と一緒に祈っている幼い少女の歌なのだ、ということを得々として

(よそ眼にはそう見えただろうということです。本人にはその気はありませんが) 語り、皆は感心して(?) 聞いていました。

ところがその後何故か気になって調べてみるとこの歌は本当は戦中の歌で、その3番は

「♪きれいなきれいな椰子の島 しっかり護って下さいと ああ父さんのご武運を 今夜も一人で祈ります♪」で、4番に至っては。

「♪大きく大きくなったなら 兵隊さんだよ嬉しいな ねえ母さんよ僕だって必ずお国を護ります♪」という軍国主義的な勇ましいものだったことが分かりました。くれぐれも知ったかぶりはずるものではないということが身に沁みて思い知らされました。

そう言えば、私たちも最近の子供は、「うさぎ追いし」は「うさぎ美味しい」と思っているし、「夕焼け小焼けの赤とんぼ」は子供を「追いかけて来る」ものだと思っているらしい。嘆かわしいことだ、などと言ったりしますが、その私たちが「かごめかごめ」

のかごめが「籠女」(遊女)だということ、「通りゃんせ」の発祥の地が川越らしいということも知らずに歌ってきたのです。歌は世につれです。これからはうるさいことは言わずに好きなように歌わせることにします。右:いまだ寮歌なる絶滅危惧歌謡で蜚声を張り上げる筆者。



2018年9月例会 在籍会員 8名 例会出席 7名 ネット 0名 メーキングアップ 0名
出席報告 ゲスト 1名 ビジター 0名 計 7名 出席率 78%

札幌ワイズメンズクラブ

2018年10月例会

日時：2018年10月16日（火）18:30～20:30

場所：ホテルさっぽろ弥生 1F（極楽湯裏）

札幌市中央区北3条西12丁目 ☎011-281-2511

会費 1,000円

プログラム

- | | | | |
|-----------------|---------|-------|-------|
| | 司会 | 会長 | 柴田 伸俊 |
| ① 開会点鐘 | 札幌クラブ会長 | 柴田 伸俊 | |
| ② ワイズソング・ワイズの信条 | | 全 員 | |
| ③ 聖句 | | 中田 靖泰 | |
| ④ 開会挨拶 | 札幌クラブ会長 | 柴田 伸俊 | |
| ⑤ 誕生日 | 10月17日 | 柴田 伸俊 | |
| | 結婚記念日 | なし | |
| ⑥ 卓話 | | | |

ベトナムボランティアワーク
の旅報告

担当主事 佐藤 雅一

- | | | |
|----------|------|-------|
| ⑦ 諸報告 | | |
| ⑧ YMCA報告 | 担当主事 | 佐藤 雅一 |
| ⑨ 今月の歌 | | |

「若者たち」



- | | | |
|-----------|---------|-------|
| ⑩ 閉会挨拶・点鐘 | 札幌クラブ会長 | 柴田 伸俊 |
|-----------|---------|-------|

札幌ワイズメンズクラブ8月例会

日時：2018年8月21日（火）18:30～20:30

場所：北海道YMCA 201教室

出席者：秋葉、小野、佐藤、柴田、中田、宮崎

ゲスト：有坂美紀（卓話者）

RCE北海道道央圏協議会事務局長の有坂美紀さんを招いてSDGs（持続可能な開発目標について）学びました。知っているつもりでSDGの様々な側面を丁寧に解き明かして頂き、目から鱗が落ちる思いでした。特に、開発途上国の最前線で働いている小野会員の参加で議論が一層深まりました。

札幌ワイズメンズクラブ9月会員協議会

日時：2018年9月18日（火）19:00～20:30

場所：北海道YMCA 総主事室

出席者：秋葉、佐藤、柴田、中田、伏木、宮崎

クラブ例会会場として使用していた北海道YMCAの教室が突然改修工事のため、使用できなくなり例会を開くことが出来なくなりました。急遽「会員協議会」に切り替え、秋葉総主事から、工事の今後の見通しを聞き、クラブ、北海道部の日程調整を行なった。◆10月例会会場は北クラブと同じ「ホテル弥生」。◆卓話は佐藤雅一連絡主事と専門学生生徒の「ベトナムワークの旅報告」。

何故この聖句を？ 中田 靖泰会員

思いがけぬYMCAの改修騒ぎ、札幌クラブの会員減少、更に私事では妻千鶴子の発病、介護施設への入所等々試練が続いています。いつも喜んでいることなど無理なことです。これが本当に「神が我々に求めていることなのか」と疑ってしまうこともあります。しかし、不平たらたら肩を落としてとぼとぼ歩くより、「これが私に与えられた道」と笑顔で前に進む方が明るい未来へ続く近道であるのは確かです。



8月例会

左から
佐藤、小野、
宮崎、柴田、
有坂、秋葉、
中田、

SDG とは？ RCE 北海道道央圏協議会 事務局長 有坂美紀



この地球を私たち人間の手によってこれ以上壊さず、さらには多様な存在が暮らしやすい環境にするのは可能でしょうか。皆さんは、生きづらさを感じる、あるいは誰かが生きづらそうにしている場面に遭遇したことはありませんか。先日、作業療法の研究をされている方のご講演を聞き、「人は誰でも10の役割がある」というお話をお聞きしました。この「役割」というのは、家庭で、仕事で、組織で、趣味で、自分が置かれた状況によって異なる役割があるという意味です。人はそれぞれ、立場や状況によって多様に変化する役割に対応しながら日々暮らしているのだと思います。では、地球の存続を考える時、同じ個人であれば立場が違って描く未来の姿や重視するものは同じなのでしょうか。恐らく、その答えは「NO」だと思います。同様に、それぞれの組織や分野などが違えば、まったく同じ未来の姿を描くことはないでしょうし、同じ姿ではかえって多様性が失われた状況ではないかと考えてしまいます。では、どんな立場や役割であっても共通して押さえておくべきこととは何でしょうか。

2015年9月、国連総会において193あるすべての国連加盟国と多様なステークホルダーの賛同を得て採択されたのが、2030年までの世界共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」です。“誰ひとり取り残されない No one will be left behind”を理念に、地球と人間の平和と繁栄をパートナーシップによって実現することで、持続不可能な今の世界を変革するための17の目標です。つまり、どんな立場や役割であっても“誰ひとり取り残されない”状況をつくるのが、多様な存在が暮らしやすい環境づくりに欠かせないと、世界が共通の認識を持ったということになります。2016年12月に日本政府としても「SDGs実施指針」を決定し、日本国内でも行政や企業、市民団体などにおいてSDGsに関連した取り組みが盛んに行われるようになってきました。

SDGs に対する認知度が上がっていく中で、どれだけ「本質的」にSDGs 達成のための取り組みが進められているのでしょうか。企業や行政が出すレポートには、SDGs のカラフルなロゴが並び、SDGs に取り組んでいるとしています。それぞれの組織の強みを生かして「持続可能な開発」に関わる問題に取り組むことは重要です。ただ、SDGs 達成のためには、「環境」「社会」「経済」の諸問題を同時に解決していく必要があると言われ、それぞれの目標やターゲットの間には、多くの場合、【相互依存】・【相乗作用】・【トレードオフ】の関係が存在しています。ここで特に注意が必要なのが、【トレードオフ】です。1つの分野だけに特化した取り組みを進めた場合、「一方を立てれば他方が上手くいかない」という状況に陥ることがあります。これがトレードオフです。SDGs 達成に取り組んでいるということは、同時解決のためのトレードオフの関係に気付くための仕組みや意識が欠かせないという事になります。

その場その場に応じて、様々な役割を担っている私たち。どんな存在も暮らしやすい環境を実現していくためには、“誰ひとり取り残されない”というSDGs の理念を忘れないことが大切です。当たり前のように見えるかもしれませんが、どんな状況、どんな環境においても“取り残されることはないか？”“取り残されている存在はいないか？”と、トレードオフに気を配りながら、自分や自分の所属する組織、社会に対しての「問い」が不可欠です。その問いに答えていくことが、SDGs の達成に繋がっていきます。自分の中の多様性、多様な視点を磨くため、今までに見たことのない世界に関心を向けてみませんか。

↓↓↓SDGのゴールです！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



安田文子会員 日露親善で大活躍 ロシアの楽友の追悼コンサート

北海道新聞 2018年(平成30年)10月18日(木曜日)

創設者の遺志継ぎ札幌公演



北海道の音楽交流を20年近く続けてきたロシア・サハリン州の「ユジノサハリンスク室内オーケストラ」が21日、札幌市内で3年ぶりに公演する。創設者の指揮者アレクサンドル・スジャヤーエフさんが昨年死去。共演を兼ねてきた西のピアノ奏者安田文子さん(47)が悲しみを乗り越えて準備を手伝い、今回も共演する。

このオーケストラは、サハリン州の市立音楽院(ハリン)がまた混乱して閉鎖して2000年から起った1999年にスジャヤー、川、因頼、札幌まで公演し、エフさんが創設。ユジノ、北領土に隣接する根

室でも演奏。道内の楽団「シャエフ」は「もう一歩サハリンに近づきたい」と、度々、キタラで演奏する。北海道とサハリンの音楽交流に力を入れたスジャヤーエフさんは2008年6月、ユジノサハリンスクで演奏した。安田さんは「ロシアの音楽家には呼ばれ、彼の遺志を継いで日露の交流・親善をはかる演奏会を10月21日札幌ルーテルセンタービルで行いました。左：演奏会を紹介する北海道新聞。

実現に尽力 安田さん「熱い演奏してくれるはず」

スジャヤーエフさんは情熱的で気さくな人柄。一身、音楽を捧げてくれたはずのえんぴつで指を擦って、お金を手作業で集めてきた。お金の多くは、スジャヤーエフさんの遺志を継いで、札幌ルーテルセンタービルで演奏する。スジャヤーエフさんは「札幌ルーテルセンタービルで演奏する。スジャヤーエフさんの遺志を継いで、札幌ルーテルセンタービルで演奏する。スジャヤーエフさんの遺志を継いで、札幌ルーテルセンタービルで演奏する。」

北海道とサハリンの音楽交流に力を入れたスジャヤーエフさんは2008年6月、ユジノサハリンスクで演奏した。安田さんは「ロシアの音楽家には呼ばれ、彼の遺志を継いで日露の交流・親善をはかる演奏会を10月21日札幌ルーテルセンタービルで行いました。左：演奏会を紹介する北海道新聞。

札幌ワイズメンズクラブの安田文子会員は、東京芸術大学を卒業後ポーランド国立ワルシャワシヨパン音楽院でディプロマ取得。更にモスクワ音楽院に入学し、モスクワ音楽院大学院を修了。ポーランド国立放送交響楽団、ポーランド国立クラコフ交響楽団、ポーランド国立シレジアフィルハーモニー管弦楽団、ルーマニア国立放送交響楽団、ユジノサハリンスク室内オーケストラ等々と共演する等々、国際的な演奏活動を行ってきました。

特に、2011年からはユジノサハリンスク室内オーケストラと共演を重ね、日本、ロシア各地で演奏を行い、ロシアと日本の音楽交流に尽力してきました。そのユジノサハリンスク室内オーケストラの創設者・指揮者のアレクサンドル・ズラジャーエフさんが昨年亡くなりました。安田さんはロシアの音楽家に呼びかけ、彼の遺志を継いで日露の交流・親善をはかる演奏会を10月21日札幌ルーテルセンタービルで行いました。

左：演奏会を紹介する北海道新聞。

YMCAニュース 担当主事 佐藤 雅一

1. バザーについて

現在、会館の補修工事を行っており、教室の一部が使用できなくなっています。そのため例年通りのバザーを実施することがスペース的に難しい事、バザーに向けて告知を初め店舗準備等が間に合わない可能性が高く10月14日実施予定でしたが札幌のバザーを延期することとしました。

今年度は例年通りの規模でのバザー実施は難しいのですが、12月に代替えプログラムを行えるかどうかの検討を行っています。決まり次第、お知らせします。

2. 国際協力募金にご協力下さい！

北海道YMCAが毎年国際協力募金を続けている理由は、北海道YMCAミッションステートメントにある「私たちは、アジア社会の一員として世界の平和を願い、共に喜びや苦しみを分かち合える地球社会の実現に力を注ぎます。」の具体的な活動として行っています。困難な状況の中で暮らす人々に

支援の手を差し伸べることはYMCAの使命であると同時にテロや紛争を防ぐ大きな効果があると言われてしています。

前JICA理事長の緒方貞子さんは、「人間の安全保障」という考え方の中で、平和を築いていくためには、誰もが最低限の生活環境と教育・医療・福祉のサービスを受けられる事が必要であると述べています。世界各地のYMCAが行っている多くの活動は人々の生活を助け、自立して生きていけるように支援するためのもので、それは平和を築いていく活動につながっていきます。

みなさんからお預かりした国際協力募金は、世界各地で行われている様々な活動を支える大切な資金となっています。

又今年度も昨年に引き続き国際協力募金の一部を「熊本地震・西日本豪雨災害・北海道胆振東部地震」の被災者支援のためにも使わせて頂きます。